リースマン著「大学革命」1969年　サイマル出版（図<1—55ダ28>，育，経，数理工，経研，東南ア研）

を読まれるとよく，学生問題については

内山敏雄訳篇「学生と政治」1969年　慶応書房

が，各国の学生運動についてよく説明された論文を集めて編集されている。

以上，はじめて大学論を研究してみようかと思う方のために手引き書を書き上げたが，この外に汗牛充棟もただならざるほどに大学論の書物が出ているから，さらに研究の歩を進めようとされる方はそれぞれにつき原典を読まれたい。（教育学部教授）

○　大学問題新聞切抜帖

附属図書館参考掛では，朝日・毎日・京都新聞3紙の本年6月1日号より，大学問題に関する記事，論説，写真等を切抜いて，スクラップ・ブックを作ってきた。日付順に貼付けたもので，現在15冊に達し参考図書室に常置している。せいぜいのご利用をねがう。

—図書館のうごき—

昭和44年度全国図書館大会

本年度全国図書館大会は10月15日より3日間にわたり，長野市において開催せられた。その中でわれわれにもっとも関係の深い16日に信州大学教育学部で行なわれた大学部会についてのべることにする。

本年の議題は，大学図書館の相互協力並びに大学図書館の組織・管理の実際について研究討議する，となっていたが，実際には，“現下の大学改革問題と図書館の関係について”が，本部会の議題の中心となった。会議はまず官立，私立，公立の図書館を代表して，東京大学，関西学院大学，大阪市立大学の各図書館よりそれぞれ詳細な報告と意見が発表せられた。要約するといずれも現在の大学紛争にあたって，各図書館は直接的に大きい被害を受けてはいないが，大学がその根本から改革を要求せられているとき図書館も決して無縁ではない。むしろこの際こそ図書館の大学における存在意義を明確にし，大学改革の上に図書館の改革—部局図書室をも含めて—を考えねばならないということにあった。

ついで明治大学図書館より「図書館に対する学生の要求」（目下集計中）が中間報告せられた。さらに小田泰生氏による「国立国会図書館の機械化計画について」と題する報告があり，マーク・プロゼエクト，プロセツシング・インフォーメーションファイルについての報告説明と国会図書館の第1期機械化についての詳細な報告があった。最後に先般東京において開催せられた日米図書館会議について，板垣一橋大学図書館長より説明がなされ，日米図書館会議について今後とも全図書館界をあげての支援と助言が強く要望せられ，短かい期日であるが有意義な会議を終了した。

国立七大学附属図書館協議会　—第43次—

本協議会は，大学附属図書館としては規模が類似している国立7大学の附属図書館が運営上共通の諸問題を協議するため設けられた組織体で，毎年7大学間の輪番制により運営されている。今次の協議会は，名古屋大学が当番となり，9月25，26日の両日，名古屋市において開催された。今回の会合は，目下，各大学共通の課題である大学改革に関連した大学図書館のあり方や，その運営，体制に関する諸問題（附属図書館商議会の性格・機能その他）が